

第2回 軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展並びに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 神尾彰彦）の審査を経て平成12年3月8日（水）開催の第32回理事会において慎重審議の結果、磯貝光之君、大森梧郎君、小菅張弓君、宮木美光君、柳田清實君の5名の授賞を決定、(株)軽金属学会第98回春期大会第1日目の5月13日（土）に富山大学において表彰式を挙行了。

受賞者



磯貝光之君

(アイシン軽金属株式会社
取締役副社長)
昭和13年3月30日生（61歳）

受賞理由

磯貝光之君は、アイシン軽金属(株)を学会維持会員に導き、自社を代表して1981年以降北陸支部の幹事を引受け、今日まで支部の運営と活動に積極的に参加してこられた。具体的には、支部の恒例事業である春秋の講演・企業発表会および秋の幹事研修・見学会の企画・運営に積極的に参加されるとともに、講演会講師として、また企業見学会等にも協力して頂いてきた。なお、北陸地区で行われた3回の春期大会においても重要な実行委員会メンバーとして活躍した。1999年度より学会評議員として活躍されている。

産業界ではアルミニウムの自動車への適用拡大を進め、バンパー材に高強度の難加工性アルミニウム合金を適用するための押出技術を開発し、第25回小山田記念賞を受賞した。また、アルミニウム押出しの高精度化技術の開発により、日本塑性加工学会技術開発賞（1999年）を受賞した。さらにアルミニウム casting 分野においては、日本ダイカスト協会副会長、中部ダイカスト協会会長の要職に就き、鑄造技術の高度化、高リサイクル技術の開発等の推進に尽力した。

以上のように、軽金属学会、とくに学会支部の運営と活動への寄与は極めて大きく、学会活動の成果を基にした産業界発展への貢献も極めて顕著であると認め、ここに第2回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者



大森梧郎君

(元 金属材料技術研究所)
昭和8年4月2日生（67歳）

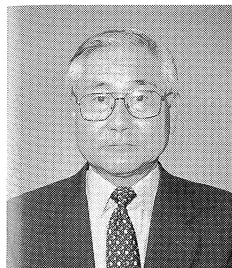
受賞理由

大森梧郎君は、永年にわたり学会活動（1978年～1992年総務委員、1981年～1995年評議員、1983年～1995年編集委員、秋期大会実行委員、小山田記念賞選考委員）に積極的に参画するとともに、研究業務においてはマグネシウム研究の草創期からマグネシウム合金の加工性に関する材料研究を促進し、1977年には「多結晶マグネシウムの加工性におよぼすランタン及びセリウム添加の影響」により軽金属論文賞を受賞しており、わが国の数少ないマグネシウム材料に関する研究者として、大会発表や論文発表により国内におけるマグネシウム技術研究の推進に尽力された。

また、学会にかかわる研究業績だけでなく、日本マグネシウム協会の前身であるマグネシウム委員会で開催していたマグネシウム展伸材・鑄物などの技術研究などにも、主要メンバーとして積極的に参画し、マグネシウム押出技術の評価や鑄造ビレットの鍛造素材への応用、マグネシウム製品の開発（手押し車、ホイール）、マグネシウム鑄物の製造技術の標準化などに尽力した。

最近では、軽量化材料としてマグネシウムが注目されるようになってきたが、軽金属学会の活動を基にした産業界の発展に対する貢献も極めて顕著であると認め、ここに第2回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者



小菅張弓君

(日本軽金属株式会社
常勤顧問)

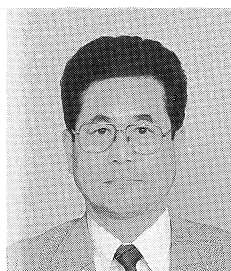
昭和14年6月26日生 (60歳)

受賞理由

小菅張弓君は、永年にわたり学会活動（1978年～1995年の17年間編集委員，軽金属論文賞推薦委員，軽金属論文賞選考委員，小山田記念賞選考委員，40周年記念出版部会委員，材料物性部会委員）に積極的に参画し，研究業務においては学会誌「軽金属」へ多くの論文を投稿し，1973年「高温加熱時の Al-Fe-Si 合金中の縦の木組織の挙動」，1978年「Al-Zn-Mg 合金の押出性および押出材の性質に及ぼすけい素および均質化処理の影響」で2度の軽金属論文賞を受賞した。また，解説，連載講座，技術資料等を執筆し，40周年記念出版では「アルミニウムの組織と性質」を執筆分担する等本学会の活動に貢献した。

以上の業績が顕著であると認め，ここに第2回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者



宮木美光君

(ニコーアルミ工業株式会社
代表取締役社長)

昭和15年10月23日生 (59歳)

受賞理由

宮木美光君は，車両，船舶，自動車などに幅広く利用されている構造用アルミニウム合金分野の発展に貢献してきた。時効析出物や結晶粒制御により耐応力腐食割れ性を改善した合金は，地下鉄車両や新幹線に採用され，高い軽量化効果で省エネルギーや高速走行を実現している。これらの成果により，1979年に防衛装備協会賞，1983年に科学技術庁長官賞を受賞した。また，時効硬化による高強度化を初めて自動車熱交材に応用し，第28回小山田記念賞を「高強度アルミニウム合金製ラジエータの開発と実用化」で受賞した。

学会活動においては，春秋大会での数多くの発表，論文投稿だけでなく，40周年記念国際会議（RASELM）での展示部門部会長，編集委員等の歴任を通じて，学会の発展に幅広く貢献した。特に材料物性部会ではその設立時から参画，部会長にも就任し，超厚板材を企業から大学へ提供する等，産学連携共同研究に成果をあげた。

軽金属学会活動の成果に基づき，工業標準化委員会における応力腐食割れ試験法の JIS 化，アリシウムでの Al-Li 合金の開発等を推進したほか，軽金属協会，日本鉄道車輛工業会，日本航空宇宙工業会等の委員会へ積極的に参加し，アルミニウム業界の発展に貢献した。

以上の業績が顕著であると認め，ここに第2回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者



柳田清實君

(日圧産業株式会社
常任顧問)

大正11年3月10日生 (77歳)

受賞理由

柳田清實君は，昭和20年代の終わり，DC 法により高純度アルミニウムスラブを提供し圧延割れ防止を計り高純度アルミ業界に貢献した。また，当時送電線用アルミニウム材の電導度の向上を図り貢献した。1961年「アルミニウム電解地金の汚染に関する研究」で軽金属論文賞を受賞し，アルミニウムの溶解保持に関し溶湯表面の酸化に注目，注意を喚起した。本研究については，1962年 A.I.M.E. Annual Meeting EXTRACTIVE METALLURGY OF ALUMINUM に “Effect of Holding on Some Properties of Metal Tapped from Electrolytic Cells” を発表した。1962年住友化学応用研究部門の発足に当たり表面処理に着目し，有機酸（ナフテレンジスルホン酸に着目）利用電解発色，鋳物合金・ダイカスト合金の電解発色の研究を推進，技術供与等により業界の発展に貢献した。1972年2月 Modern Metals に Integral-color anodizing として紹介された。1978年ダイカスト合金の表面処理の開発工業化に対して日本金属学会技術賞を受賞した。また，Impact Extrusion 法によるアルミニウムチューブ材として高強度アルミニウムベース合金を用い延伸率を高め，破れにくいチューブの試作研究を行った。また，学会活動においては，関西支部運営委員および支部理事として20有余年にわたり支部活動に貢献した。

以上の業績が顕著であると認め，ここに第2回軽金属学会功労賞を贈る。